

チュチュエ哲学にもとづいて確実に前進する朝鮮

ユセフ・アル・マルワニ

アフリカ・チュチュエ思想研究委員会理事

私は1983年に初めて朝鮮を訪問しました。代表団は朝鮮社会科学協会の招待で、2人の教師とチュニジア作家連合のメンバーが含まれていました。

この小さな国でありながら大きな存在感を与える偉大さは、革命の原則に対する堅固さ、人々の闘争精神の水準、そしてその自主と尊厳を守るための覚悟にあります。おそらく注目を集めるのは、チュチュエ哲学によって提案されたものの間の調和です。祖国としての朝鮮の建国の基礎であり、知的理論としての、そして応用の水準での発展と展望、すべての人生の歩みのための日常の実践がそこにあります。

何十年もの間、その偉大な歴史に根ざしている哲学は、朝鮮に対する歪められた悪意のある西洋の宣伝にもかかわらず広がっています。

朝鮮民主主義人民共和国は、偉大な指導者である金日成主席によって確立されたチュチュエ哲学の原則を堅持し、着実に発展を続けています。

チュチュエ哲学には、自然、社会、人間という3つの基本的な要素が含まれています。人は自然を支配し変化させ、社会とその運命の主人です。指導者としては、社会の中心であり指導的要素である政党の鼓動の中心です。3つの要素は補完的で相互に関連しており、理論的水準と実践的水準で互いに調和しています。

朝鮮人民の最も重要な特質の一つは、祖国への強い愛着、忠誠心、そしてその構成要素への誇りであり、それは不滅の指導者である金日成主席と継続した指導者の指示を忠実に継承します。それは国家元首としての彼の使命でした。

1955年の彼の著作のなかで、指導者は次のように書いています。

「朝鮮の歴史と地理、そして朝鮮人民の習慣を知る必要があります。そうして初めて、私たちは彼らに合った方法で教育し、強い愛情を持って彼らを鼓舞することができます」

これらの教示は、彼らの習慣、歴史に対する朝鮮人民の責任の明確な証拠です。彼らが依拠する朝鮮人民は革命の目標を達成するためにチュチュエ思想の原則を継承し続けることに熱心です

そして、必要なときはいつでも、そしてさまざまな連続する歴史的段階によって要求されるように、彼らを強化し、彼らの柱を統合し、各機関の成果を発展させます。1982年に金正日総書記が行った声明の中で、チュチュエ思想と政治的行動の実践との間のこの調和が注目されます。

それは朝鮮の人々が思想と政治における自主、経済的自立、そして防衛における自衛を享受することを要求します。政府の政策は人民大衆の意志を反映しなければならず、革命の方法は国の実情に適切でなければなりません。

朝鮮民主主義人民共和国の政策は、日本の植民地主義からの解放と新しい自主独立国家の設立以来、特に米国との関係において、時代を超えて首尾一貫しています。これは、バイデンが政権を握る前後の朝鮮の指導者である金正恩総書記の言葉によって確認できます。

「米国は朝鮮の最大の敵」であり、彼はワシントンが平壤に対する政策を変更することを期待していない。アメリカ合衆国の次期大統領が誰になっても変わらないと指摘しています。

金正恩総書記は、朝鮮労働党第 8 回大会での演説で、自国の核兵器と軍事力を強化することを約束しました。彼は、原子力潜水艦を建造する計画は完了に近づいていると述べた。

朝鮮の公式発表は、「米国は私たちの革命に対する最大の障壁であり、最大の敵である。権力を握っている人は誰でも、朝鮮に対する政策の性質は変わらない」と述べたと金正恩総書記の言葉を紹介しました。

朝鮮の人々とその指導者は歴史を読み、教訓を引き出し、そこから学び、そしてそれを知っているからです。

敵と対峙するのは、意図や言葉ではなく、議論の力であり、これらの議論の中で最も重要なのは、強力で侵入不可能な軍隊です。

抑止力、祖国防衛、そして真の永続的な免疫力の構築です。